

「スローガン「飛んでるローカル豊岡」」 移住定住促進プロモーション開始!!

本市は、Uターン者を促進するため、ポータルサイトの開設など、新たな取組みを開始しました。

移住定住を促すスローガンは「飛んでるローカル豊岡」。徹底的にローカル(地方)の価値にこだわり、各地域の文化や自然、人とのつながりを生かし、都会とは違う豊かさを追求していきます。

開設したポータルサイトの

9月上旬、Uターン者がつくる
移住ポータルサイト、オープン!

編集部は全員、豊岡のゼンバイ移住者たち。移住者からみた豊岡のすべて、そして、「移住」という選択のリアルを語りつくす、まったく新しい移住ポータルサイトを完成しみに。



▲ポータルサイト「飛んでるローカル豊岡」



▲本市の魅力を表現した6種類のポスター

編集部は、本市に住む先輩移住者たち。今後は、先輩移住者から見た豊岡暮らしのリアルな魅力を発信します。

また「豊岡靴」「コウノトリ育む農法」「コミュニティ教育」「出石永楽館」「城崎国際アートセンター」など、本市の多様な魅力にスポットを当てた6種類のポスターや、プロモーションムービーも制作しました。

「気心知れた仲間が集まり市長と対談」 「中貝市長とふれあいトーク」開催

7月19日から8月5日まで、6会場で、気心知れた仲間が集まり、市長と気軽に語り合う「中貝市長とふれあいトーク」を開催しました。

今回、市内の16グループから応募があり、日々取り組んでいる活動や、地域づくりやまちづくり、子育てなどさまざまなことについて、市長と意見交換を行いました。

市では、今後も「対話と共感」の市政を推進します。



▲若いパワーで盛り上がった「日高高校看護専攻科1年生」

「技」を磨き「士気」を高める3年に一度の大舞台 豊岡市消防団「第2回消防操法大会」開催

8月7日、本市の6消防団の各代表が、動作や礼節、機関操作の正確さ、スピードなどを競い合う「消防操法大会」を開催しました。この大会は、3年に一度開催し、今年が2回目。大会を通して地域の消防活動の充実発展を図ります。

当日、6消防団は、ポンプ車操法と小型ポンプ操法で、日ごろの訓練成果を、互いに確かめ合いました。



▲ポンプ車操法で放水する団員ら(コウノトリ但馬空港西側の広場)

「主な市政の動き」

7月

12日・兵庫県行政書士会と「大規模災害時における被災者支援協力に関する協定」締結

19日・中貝市長とふれあいトーク(8月5日)

21日・豊岡市地方創生戦略会議

22日・豊岡アートシーズン2016」とよおか「ト緑日」

新しい地域コミュニティ先進地事例研修

26日・豊岡市地方創生総合戦略(第2版)策定

豊岡市図書館未来プラン検討会議

27日・豊岡市公共施設再編計画(案)市民説明会(豊岡、28日・竹野、8月3日・但東、4日・日高、5日・出石、9日・城崎)

1日・豊岡市地域福祉計画策定委員会

4日・豊岡市環境審議会

5日・豊岡市基本構想審議会

7日・豊岡市消防団「第2回消防操法大会」

8月

全34のイベントが魅せる！ 文化施設を中心としたアートのお祭り

豊岡アートシーズン2016開幕

文化・芸術を通して豊岡の魅力発信する「豊岡アートシーズン2016」が開幕しました。

7月から11月にかけて、全34のイベントが開催される予定で、初日の7月22日に開幕イベントの「とよおかアート縁日」が開かれました。

近畿大学附属豊岡高校^{きょう}管弦部の演奏で幕を開けたイベントは、劇作家の平田オリザ

さんと但馬の高校生との対談へと移り「高校生活で大切にすることは」との問いに、平田さんは、自転車ですべて一周した思い出を紹介。「いろいろなことに挑戦し、芸術にも触れてほしい」と助言を贈りました。



▲平田オリザさんと高校生の対談

次世代に負担を先送りしないために

豊岡市公共施設再編計画(案)市民説明会開催

7月27日から、市内の6会場(豊岡・城崎・竹野・日高・出石・但東)で、公共施設の保有量の最適化(総量縮減)などについて、市民から意見を聞く「公共施設再編計画(案)市民説明会」を開催しました。

本市では、平成26年度から、適切な公共サービスの提供と、安定した財政運営を両立させるため、公共施設マネジメントに取り組んでいます。

築後20年(平成28年4月1日現在)を経過した施設を「建替」「継続」「転用」「譲渡(民間移管)」「廃止」「移転」「統合」「検討」に分類し、計画的な再編を行っていくものです。



▲職員から説明を聞く参加者(竹野庁舎)

中貝市長の徒然日記 106

市長特別授業なのだ

「市長特別授業はいりませんか? 大安売り、無料ですよ!」と言ったかどうか、市内の高校を押しかけて回っています。これまでに3校を終えました。

多くの見るところ、多くの高校生は豊岡が好きです。でも、その多くは、大人たちが口癖のように言う「豊岡には何もない」を漠然と信じています。豊岡は自分が一生暮らすところだと思っていま

せん。が、知らないだけということもたくさんあるはず。授業では、豊岡の素敵なところを語り続けています。

日高高校でのやり取り。生徒「豊岡の良い所を市外の人に知ってもらう方法は?」中貝「雑誌やテレビに取材を働きかけています。昨年度は広告料換算で約9千万円分、取り上げられました。フランス、アメリカ、オーストラリアに豊岡の代理店としてPRしてもらっている会社があります。昨年、外国人宿泊客は3万4千人になりました」

出石高校でのやり取り。生徒「古いものを残すとはどういうことですか?」

中貝「古いものを壊すと、もう元には戻りません。外観を保ちながら、中を変えて使い勝手を良くするという方法もあります。昔からのものを大切に、磨き、次の世代へと引き渡す。永楽館は、その典型例、成功例です」

豊岡高校でのやり取り。生徒「中心市街地に企業を誘致したらどうでしょう?」中貝「お、まさにそれ、今考えています。IT系の企業を街中のご洒落た建物に誘致しようと制度の検討をしています。サーバーの設置や改修費用の支援などを考えています」

素敵な町だからいつか帰っておいで、というのが授業で伝えたいメッセージです。しかし。大都市で暮らすのも立派な人生。豊岡で家族や地域を支え、歴史に名を残すことなく死んでいくのも立派な人生。優劣はない。世の中にはさまざまな人生があるし、あつていいのだ。それが最も伝えたいことなのかもしれせん。